

■ 学校の共通目標

| | | | | | |
|------|----|--|------|---|------|
| 授業作り | 重点 | ・各教科や総合的な学習の時間等において、自分の考えや思いを書く活動を意図的に計画したり、ICTを効果的に活用したりして、児童が主体的に考え、伝え合い、高め合う授業を目指す。 | 中間評価 | ・書く活動を意図的に計画したり、ICT機器を効果的に活用したりすることで、児童は主体的に考え、伝え合うことができるようになってきたが、高め合うためには、話し合い活動の充実が必要である。 | 最終評価 |
| | | ・全ての児童が落ち着いて学習に取り組むことができるように、まなびの教室の教員と協力して教室環境、学習環境を整備する。 | | ・教室環境と学習環境の整備により、集中して学習に取り組む児童が多くなってきた。特別支援を必要とする児童が落ち着いて学習に取り組めるよう、まなびの教室の教員との連携をより一層密にしていく。 | |

■ 学年の取組内容

| 学年 | 教科 | 学習状況の分析（10月） | 課題（10月） | 改善のための取組（10月） | 最終評価（2月） | |
|----|----|--|--|---|--|----------|
| 1 | 国語 | <p>学「話すこと」については意欲的である。「聞くこと」については、話に集中することはできるが、必要なことを聞き渡らさないようにすることは、十分定着しているとはいえない。</p> <p>学平仮名の読み書きはほぼ習得しているが、片仮名の読み書きは、十分定着しているとはいえない。一、二文の文章を書くことについては意欲的であるが、語と語や文と文の続き方に注意してつながりのある文章を書くことに対して苦手意識をもつ児童が多い。長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞「は」「へ」「を」の使い方については、十分定着しているとはいえない。また、語彙が少なく、言語事項の習得状況に個人差がある。</p> <p>学日常的に感染予防対策でマスクを着用しているため、正しい口形、発声、発音の学習が十分できていない。また、幼児音の残る児童も見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを落とさずに聞けるようにする。 ・文や文章の中で片仮名を適切に使えるようにする。 ・自分が書いた文を読み返す習慣を身に付けさせる。 ・「ライオン」が「ダイオン」「子ども」が「ころも」になるなどの置き換えや「～です。」「～でした。」が「～れす。」「～れした。」に「話すこと」「書くこと」共になるので、正しい発音を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会后に、校長講話の内容をワークシートに書かせる。 ・身近にある片仮名で書く語を毎日少しずつ取り上げ、文や文章を書く場面を意図的に設定する。 ・視写や作文指導など、文章を書く機会を多く設ける。また、書き出しの文を統一したり、友達の書いた文章を読んだりすることで、様々な「書き方」を身に付けられるようにする。 ・長音、拗音、促音、撥音の含まれる語の視写を計画的に学習活動に取り入れる。 ・感染予防に留意して、一音一音を識別させて、母音の口形、安定した発声、明瞭な発音を意識して音読練習に取り組む。 | | |
| | 算数 | <p>学10以内の加法については、概ね理解できている。</p> <p>学10以内の減法については、理解はしているが計算に時間のかかる児童がいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・10の補数をすぐに言えるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5までの数の構成（合成・分解）の反復練習をする。 ・5までの加法、減法を確実に身に付けさせる。 ・授業の最初に毎時間、10の補数の学習を行い、数に対しての苦手意識を取り除く。 ・おはじきや算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。 ・タブレット端末を活用して計算問題の習熟を図る。 | | |
| 学年 | 教科 | 学習状況の分析（4月） | 課題（4月） | 改善のための取組（4月） | 中間評価・追加する取組（10月） | 最終評価（2月） |
| 2 | 国語 | <p>学平仮名も片仮名も、字形を整えて書くことができる児童が多い。平仮名では、「は」と「わ」、「お」と「を」の書き間違いが多く見られる。平仮名で書く言葉と片仮名で書く言葉の区別がまだ十分にできていない。</p> <p>学文章を進んで書こうとする態度が見られる。句点を忘れることがある。</p> <p>学既習漢字を正しく書くことができる。どの熟語でどの漢字を使うのかを判別することは、まだ十分にはできていない。</p> <p>学明瞭な発音で音読できる。声の大きさや抑揚の工夫については、まだ不十分である。</p> <p>学大事な内容を落とさずに聞く力に、個人差が見られる。</p> <p>学文章の内容を正確に読み取る力に個人差が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名と片仮名を、文や文章の中で正確に使うことができるようにする。 ・主語、述語、くわしくする言葉、句読点を正しく使い、分かりやすい文や文章を書くことができるようにする。 ・新出漢字を読んだり書いたりすることができるようにするとともに、その字を使った熟語や言葉を数多く知ることができるようにする。 ・音読や群読で、場面の様子や登場人物の心情を表現できるようにする。 ・集中して、大事なことを落とさずに聞く力を高める。 ・文章を正確に読み取る力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語科だけではなく、算数科の振り返り、生活科の学習カード等、全ての教科において文や文章を書く機会を多く設け、丁寧に添削する。 ・テーマ作文や日記に取り組みせ、文章を書く機会を増やす。 ・自分が書いた文章を、声に出して読ませることで、文のねじれや句読点の打ち忘れに気付かせる。 ・タブレット端末のドリルを活用して、新出漢字の定着を図る。 ・新出漢字を使った言葉集めをすることで、語彙を増やす。 ・音読の練習では、カードを活用し、何を意識したらよいかを明確にわかるように工夫する。 ・全校朝会の内容や、次の日の連絡を聞き取って書くなど、聴写の機会を多く設ける。 ・「いつ」「だれが」「どこで」「どうして」「何をした」を授業中におさえる。 ・文章を音読させ、その様子から正確に読み取りができているかを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の書き間違いは少なくなったが、片仮名を正確に書いたり、適切に使ったりすることが難しい児童が見られる。定期的に片仮名の復習を朝学習等に取り入れる。 ・句読点や既習した漢字が使われていないこと、主語と述語がねじれていることに気が付かない児童がまだ多い。観点を示したチェックカードを活用させる。 ・タブレット端末のドリルに加え、紙ベースのドリルも並行活用して習熟を図る。 ・言葉集めは語彙の習得に効果的である。 ・学習発表会の音読劇を機会に、表現力を磨くことができるよう指導する。 ・朝会の講話や連絡を聴写することで、集中して聞くことができる時間が増えてきた。 ・「スイミー」や「ミリーのすてきなぼうし」のあらすじをまとめる活動を通して、物語を読みとる力が高まってきた。 | |

| | | | | | |
|---|----|--|---|--|---|
| | 算数 | <p>学 10の分解、合成がすばやくできる児童が多い。1桁+1桁で答えが10以上になるたし算や、10以上の数から1桁の数を引く引き算の計算速度に個人差が見られる。</p> <p>学 自分の考えを、言葉や図で説明する力に、個人差が見られる。式は書いても、その意味を説明することが難しい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下がりのある計算が正確にできるようにする。 ・自分の考えを、式や図、言葉で表現することができるようにする。 ・式や図を見て、どんな考え方をしたのかを説明できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1桁+1桁で答えが10以上になるたし算や、10以上の数から1桁の数を引く引き算が即座にできるようにするために、毎時間の授業の最初に計算練習を取り入れる。 ・ノートの書き方を指導する。考えを分かりやすく説明できていたノートを手本として示す。 ・友達のかいた式や図を見て、解き方を説明する活動を、授業に取り入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算練習の成果が表れ、繰り上がりのあるたし算は正確にできるようになってきた。繰り下がりのあるひき算についても、練習を続けていく。 ・自分の考え方を図や式を用いて表すことができるようになってきた。児童相互のコミュニケーションによって、更に考えを深められるようにしていく。 |
| 3 | 国語 | <p>調 令和3年度新宿区学力定着度調査では、活用が目標値よりも下回っていることが分かる。領域別で見ると、「情報の扱い方に関する事項」、「読むこと」は目標値より上回っている。一方で「書くこと」は目標値よりも9ポイント下回っている。</p> <p>学 学習の振り返りを書く際、書く文章の量に個人差が見られる。相手に分かりやすく書くことが難しい。</p> <p>学 既習の漢字についても、新出漢字についても、習得について個人差が大きい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・主語・述語を適切に使い、分かりやすく文章を書くことができるようにする。 ・自分の考えをつなぎ言葉を用いて、多く書くことができるようにする。 ・使える語句を増やし、様々な表現で文章を書くことができるようにする。 ・既習の漢字を、文や文章の中で正確に書くことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間にテーマ作文を書く時間を設け、文章を書く時間を確保する。友達の作文を見る機会を設け、書き方を学ばせる。 ・国語科だけでなく、算数科の振り返り等、全ての教科において文や文章を書く機会を多く設ける。 ・国語辞典を活用して使える語句を増やす。 ・タブレット端末のドリルを活用して、新出漢字の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主語・述語を適切に使い、文章を書くことができるようになってきた。また、つなぎ言葉や修飾語を用いて分かりやすく文章を書けるようになってきた。文章を書く量に個人差が見られる。掲示してある友達の作文から書き方を学ぶなど継続的に書く時間を設けていく。 ・国語辞典を使う機会を適宜設けたり、「言葉の宝箱」の掲示や意味調べを行ったりして語彙を増やしている。 ・タブレット端末のドリルに加え、紙ベースのドリルも並行活用して習熟を図る。 ・漢字テストを繰り返し行い、漢字の定着を図っている。 |
| | 算数 | <p>調 令和3年度新宿区学力定着度調査では「数と計算」、「測定」とともに区の平均正答率より下回っている。</p> <p>学 基礎的・基本的な計算の習得に個人差が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・九九の習熟に個人差が見られる。瞬時に九九が出てこない児童が多いため、反復練習が必要である。 ・基礎的・基本的な計算力を付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算問題に繰り返し取り組み、計算力を高める。九九をはじめとする四則計算のタイムトライアルなどを行い、計算力の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・九九の計算練習を繰り返し行うことによって、2けた×1けた、3けた×1けたの問題をはやく、正確に解くことができるようになってきた。 ・引き続きタブレット端末を利用した計算練習に取り組み、習熟を図っていく。 |
| 4 | 国語 | <p>調 令和3年度新宿区学力定着度調査では、「基礎」「活用」のどちらも目標値を下回っている。領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」が8.1ポイント、「書くこと」が10ポイント、「読むこと」が5.1ポイント区の平均正答率を下回っている。</p> <p>学 授業では、学習の振り返りを書く際、自分の考えを入れて書くことができるが、内容を分かりやすく書くことや、原稿用紙を正しく使って書くことが難しい状況が見られる。</p> <p>学 既習の漢字についても、新出漢字についても、習得状況の個人差が大きい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・話の中心を明確にして、順序良く話せるようにする。 ・話し手の話す内容を理解して聞くことができるようにする。 ・文章を読んで、物語の内容を正しく理解することができるようにする。 ・文章を分かりやすく書いたり、原稿用紙を正しく使って書いたりすることができるようにする。 ・文章の中で漢字を正確に書き、適切に用いることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会でスピーチを行い、要点をまとめて話す機会をつくる。 ・スピーチを聞いて感想を伝える時間を設ける。 ・朝読書や図書室を利用する時間を使い、児童が本を読む機会を計画的に設ける。 ・学習の振り返りを継続的に書かせる。 ・テーマ作文を宿題に出し、原稿用紙の使い方を定着させる。 ・ドリルや練習ノート、タブレットを使い、繰り返し練習に取り組ませる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って自分の思いを伝えられるようになってきた。様々なテーマを設定して継続していく。 ・今後、朝の会のスピーチに対して設けていく。 ・他教科と関連付けて、計画的に図書室を利用している。自由読書の際に、活字の本を意欲的に読めるように促す。 ・視点を与えて書かせることを続ける。 ・原稿用紙の使い方が定着していない児童が多い。チェックできる掲示物等を用意する。 ・既習の漢字を、文章の中で正確に使える児童と全く使わない児童がいる。朝学習の時間を活用して、漢字を使った短文の問題に繰り返し取り組ませていく。 |
| | 算数 | <p>調 令和3年度新宿区学力定着度調査では「長さ・重さ」が区平均正答率を上回っている。「10000より大きい数」や四則の領域で、区平均正答率を下回り、「たし算・ひき算」の領域では、10ポイント下回っている。「かけ算」「わり算」の領域もそれぞれ区平均を下回っている。</p> <p>学 学習に意欲的に取り組む児童が多いが、授業での状況を見ると、3桁×3桁のかけ算の筆算など、数が大きくなるにつれて位取りが正しくできない状況が見られる。計算力の個人差も大きい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・かけ算、わり算の筆算が正確にできるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算問題に繰り返し取り組み、計算力を高める。授業内で、タブレット端末を活用して四則計算の復習を行うことで、計算力の向上を目指す。 ・大きな数のかけ算の問題に繰り返し取り組ませる。確かめ算等の活用を進め、解き間違いを減らす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題や、ドリルの練習問題にまずは丁寧に取り組み、さらにタブレット端末を利用した計算練習に取り組ませる。 ・週に2回、かけ算の100マス計算を実施している。繰り返し行い、九九を確実に定着させる。 ・かけ算やわり算の筆算の復習に計画的に取り組ませる。 |
| 5 | 国語 | <p>調 令和3年度新宿区学察調査では、基礎・活用とも目標値を上回っている。領域別に見ると「書くこと」が平均を下回っている。</p> <p>学 学習に意欲的な児童が多いため、読み取ったことを積極的に発表するが、一方で文章にして表現することを苦手とする状況が見られる。</p> <p>学 物語文の内容を捉える際に叙述の一部から人物像を考えたり、登場人物の行動の意味を考えたりするため、全体を読み通せていない児童がいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・順序を意識して構成を考える力が必要である。 ・表現方法が分からなかったり、語彙を知らなかったりするため、表現方法や語彙の種類を増やす。 ・複数の叙述や登場人物の行動の変化から人物像や行動の意味を読み取る力を伸ばす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」、「中」、「終わり」や聞かれていることを明確にさせ、構成を考えさせる。 ・日頃の読書活動や「読むこと」の学習時に文章の構成を意識させて文章に慣れさせる。 ・様々な場面で自分の考えや意見を文章に表す活動を取り入れる。文型や語彙を提示する。 ・想像ではなく、必ず本文に戻り、叙述を基にして考えるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」、「中」、「終わり」の特徴を理解していない児童がいる。「初め」、「中」、「終わり」のそれぞれの役割を確認し、全体での共有をしていく。 ・「言葉の宝箱」の掲示や意味調べを行い語彙を増やしている。また、友達同士で見合うことでよい文章や書き方に触れる機会を増やしていく必要がある。 ・叙述を基に考えられる児童が増えてきた。引き続き、根拠となる部分を明確にすることを指導していく。 |

| | | | | | | |
|---|----|--|--|--|---|--|
| | 算数 | <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査では、領域別に見ても、観点別に見ても、全ての項目で目標値や区の平均正答率を上回っており、学習内容をおおむね理解できていると考えられる。「図形」の領域で、やや正答率が下がっている。</p> <p>学集中して課題に取り組むことができる児童が多い。授業中に一度理解したことで、一人で取り組んだり、時間をおいて取り組んだりすると、解き方が分からなくなってしまうことがある。</p> <p>学解き方は分かっているが、計算を間違えて正解に結び付かないことがある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 図形の作図や、角の大きさの読み取り方が正確にできるようにする。 授業から時間が経過しても確実に解くことができるようにする。 正確に計算する力をさらに伸ばす。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業の中で、プリントやタブレット端末等で作図をする機会を設ける。 新単元の導入前に、前学年の復習をしたり、授業の導入で前時に学習したことを想起したりする時間を設ける。 基礎・基本となる計算力を身に付けさせるため、朝学習の時間等を使って反復練習を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 反復して問題に取り組むことで角の大きさを正確に読み取ることができるようになってきた。しかし、応用的な問題になると活用できないことがあるので、学習したことを活用して取り組めるように朝学習を使って改めて復習していく。 レディネステストや復習を用いて想起させたり、導入で前時の復習したりすることで本時の学習にスムーズに入ることができた。前時の学習を生かして学習に取り組めるように常に振り返りながら行う。 朝学習でタブレットやプリントを使って復習させる。 | |
| 6 | 国語 | <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査において、「漢字を読む」「漢字を書く」「説明文の内容を読み取る」の正答率は、区の平均正答率を上回っている。一方で「物語の内容を読み取る」については、区の平均正答率と比べ6ポイント低くなっている。</p> <p>学物語文の内容を捉える際に、叙述をもとに人物像を考えたり登場人物の行動の意味を考えたりすることを繰り返すことで、正しく内容を捉えられるようになってきた。</p> <p>学「書くこと」に関しては、自分の考えを書く機会を増やし、継続したことで、内容を整理してわかりやすい文章を書けるようになった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 文章を書く際に、既習の漢字を正確に使うことができるようにする。 物語文の内容を叙述に基づいて捉えることができるようにする。 時間内に書いたり、目的や問いにあった内容にならって整理したりすることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から意識して習った漢字は使うようにさせる。 物語文の指導においては、引き続き、登場人物の言動や情景に着目させ、叙述に基づいて物語の内容を正しく捉えられるようにする。 相手意識や目的意識をはっきりさせ、決められた文字数や時間内で文章を書く練習をさせる。 文章を読み、それに対する自分の考えを書ける機会を増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> 読書環境を整え、朝の読書をはじめ、児童が本を読む時間を設定する。 文章の内容を捉える際には、想像ではなく、必ず叙述をもとに考えるように指導する。 限られた文字数や決められたテーマで文章を書く取組を継続的に行う。 様々な場面において、内容に関する自分の考えを書いたり話したりする時間を設ける。 調べた内容をまとめ、目的や意図をはっきりさせて発表できるように指導する。 | |
| | 算数 | <p>調令和3年度新宿区学力定着度調査において、すべての内容で正答率が区の平均正答率を下回っている。「合同」や「平均」については、区の平均値とほぼ変わらないが、「分数と小数」、「分数のたし算とひき算」、「体積」については、区の平均正答率を10ポイント以上下回っている。</p> <p>学基本的な計算力は身に付いているが問題文を正しく理解していないがゆえに間違ってしまう状況が見られる。また、前学年までの既習内容が定着していないために問題が解けない児童も少なくない。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確実な定着を図る。 問題文を正確に読み取ることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> デジタルドリル等を活用し、既習内容の復習を計画的に行う。 問題文を音読したり、アンダーラインを引いたりして、正確な読み取りを身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝学習などで、継続的に器具を使って図形を描く活動を行う。 計画的に計算ドリルや東京ベーシック・ドリル、タブレット端末を活用し、苦手な問題を繰り返し解くなどして習熟を図る。 授業では、習熟度別クラスにて、児童の学習状況に応じた内容、進度で学習を進めていく。 補充問題として、文章問題に取り組み、しっかりと問題文の意味を捉えられるようにする。 授業では、ICT機器を効果的に活用する。 | |
| | 音楽 | <p>学音楽を体で表現する等、学習活動に主体的に取り組む児童が多い。</p> <p>学音楽を聴いて感じたことを言葉や音で表現したり、思いや意図をもって表現したりすることを苦手だと感じている児童が見られる。</p> <p>学感染症対策により、数年、鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏が満足にできていなたったため、学年に応じた技能が身に付いていない児童が多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことを言葉で表現したり、想像力をはたらかせて音楽と関わるができるようにしたりする。 表現方法を増やす。 感染症対策をしっかりと行いつつ、鍵盤ハーモニカやリコーダーの学年に応じた技能を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽から聴き取ったことを体で表す活動を引き続き行い、表現したいという気持ちをさらに伸ばす。 共通事項や「楽曲の雰囲気を表す言葉」を手掛かりに、楽曲から想像したことや、どのように演奏したいか等を言葉で表し、ワークシートに書く活動を行う。 必要に応じて前学年までの既習事項を振り返りながら学習を進めることで、確かな技能が身に付くようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 和声など音楽理論について学ぶときにも体で表現する活動を取り入れ、実感を伴った理解ができるようにしている。 「聴き取ったことを表す言葉」や「感じ取ったことを表す言葉」の掲示を参考にして適切な表現を見つけるよう、声掛けを続ける。 様々な表現を試し、「〇〇のように表現をしたい」と思いをもつことができるようにする。 3分の2程度の児童は、鍵盤楽器やリコーダーの前学年の学習内容が定着した。常時活動でも扱うことで一層定着を図る。 | |

| | | | | | |
|----|--|---|--|--|--|
| 図工 | <p>学 関心・意欲が高い児童が多いが、はじめは意欲的に取り組んでもそれが続かず、丁寧に取り組む事が難しい児童や、なかなか発想が広がらず自分の表現に自信をもてない児童が見られる。</p> <p>学 平面作品(特に絵画)に苦手意識をもっている児童がいる。</p> <p>学 鑑賞については、友達の作品を認める事が全体によくできている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 様々な題材に対して、関心・意欲をもてるようにする。 自分の作品に愛着をもち、最後まで表現できるようにする。 正しい道具の使い方を身に付ける。 様々な表現方法を知る。 名画等の鑑賞を通してさまざまな表現があることを知る。 鑑賞を通して思いを交流できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の関心、意欲を引き出し継続できるよう、様々な題材を取り入れる。また、新しい事ばかりでなく既習事項を繰り返し確認、指導しながら授業をする。既習事項を生かした学習を設定することで、安心して取り組めるようにする。 実物投影機やタブレットなども活用し、道具の正しい使い方や様々な表現方法を身につけられるようにする。 美術館等での作品鑑賞や友達との意見交換を通して、様々な表現があり、自由に表現して良いと感じる時間を設定する。 作品制作中にも随時鑑賞の時間を設け、自身の製作に生かせるようにする。 鑑賞の際は作品を見るポイントを提示したり、作った相手のことを考えた言葉選びを行うよう指導したりして、思いを交流する活動を大切にしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の関心意欲が継続出来るよう、教科書題材を規準に、実態や興味に沿う題材を取り入れるように心掛けている。お互いの作品や他学年の活動にも興味をもち、それが自分の活動にも生かされていくよう児童作品の展示を頻繁にするよう心掛けている。最後までじっくりと取り組むことが難しい児童が見受けられるので個別の指導にも気を配っていく。 自信をもって安心して活動できるよう、道具の使い方が分かりやすいよう掲示したり、ICT 機器を使ったりしている。 友達の作品を認め合う事ができるよう、掲示を多くしたり、教師の発言に気を付けたりしている。また、美術館等での作品鑑賞を通して、自由に感じる楽しさを実感できるよう今後も取り組んでいく。 | |
| 特支 | <p>学 個人差はあるが、発達特性から、コミュニケーション能力や読み書き、計算、運動能力に課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりできるようにする。 基本的な体の動かし方やバランス感覚、力加減などが身に付くようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 実生活に即した場面を設定し、挨拶や人とのやりとりなどのコミュニケーション能力を高める。 粗大運動や供応動作を取り入れ、運動能力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 小集団、個別指導で様々な場面を設定して人のやり取りについて指導している。特性に応じたコミュニケーション能力が高まってきている。 体を大きく動かしたり、手先の細かい動きをしたりする運動能力を高めている。見たものを写すことやバランス感覚、人と適切な距離をとって話すことなど、少しずつ身に付いてきている。 | |

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。